

# 10例の分娩介助を終えて ～感謝の気持ちを忘れずに～

私たちは入学当初から日々、勉強と技術練習を重ね、分娩介助の実習に備えてきました。しかし、実習が始まる6月末には、新型コロナウイルス感染が拡大し、実習ができないかもしれない状況となっていました。そのような中、実習を受けてくださった実習施設の皆さまや産婦の皆さまには、大変感謝をしています。

分娩は一例一例、まったく異なるため、実習当初は分娩が近づいてくると緊張と不安で産婦さんに何もできず、練習していたことが発揮できず心が折れそうになりました。そのような状況の中でも、学生の私に、産婦の方が「そばにいてくれてありがとう、学生さんがいてくれてよかった」と言葉をかけてくださいました。その言葉から、こんな未熟な私でも役にたてることができたのだと思い、もっと産婦の方により援助ができるよう知識や技術を磨いていきたいと思うようになりました。そして臨床指導者の方や教員から助言や指導をもらいながら、日々練習を重ね、助産学生として産婦の方のために何ができるのかを一生懸命考えながら実習に取り組みました。

何より、このコロナ禍でも命の誕生という貴重な瞬間に携わらせていただいた産婦の方とそのご家族のみなさまには感謝の気持ちでいっぱいです。この感謝の気持ちを忘れず、10期生全員が助産師国家試験に合格できるよう取り組んでいきます。ありがとうございました。

助産学科第10期生

